

私と眼鏡との共同生活は小学生の頃からです。高校生の頃には、少しはおしゃれにも気を使うようになり、コンタクトをするようになりました。

毎日、朝起きると眼鏡を手探りするところから始まります。そして、出かける前にはコンタクトを装用し、帰宅すると外して眼鏡での生活・・・というのが普段の日常です。それは、当たり前なことだし、これからも変わらないものだと思っていました。

眼科での、勤務はかれこれ8年ぐらいになりますが、一般診療ではないレーシックについては、ほとんど知識はありませんでした。そんな私に、転機が訪れたのは1年ちょっと前です。かわもと眼科が開院するにあたりレーシックを始めるというのを知ったのです。しかも、自分自身レーシックを主に担当することになり、いくつかのクリニックに研修に行ってきました。いろんなクリニックを見ることはとても勉強になり、現在とても役に立っています。

レーシックでは手術前に適応検査・カウンセリングなどで患者さんと接する時間が長い為できるだけコミュニケーションを取るように心がけています。中には不安を抱えた方も多く、そんな時コンタクトをした私が患者さんに説明するのに説得力がないのではないかと思うようになり、少しずつ自分自身のレーシックを意識し始めました。手術を決めたきっかけは、ある患者さんです。手術直後の患者さんがベッドから起きてすぐ泣き始めたのです。見える喜びをかみしめておられました・・・。

適応検査の結果と、高校生の頃に網膜剥離の手術をしていることから、私はラゼックという方法を選びました。レーシックとは違い、術後の視力回復に時間を要し、痛みを伴うことは十分にわかっているつもりでしたが、いざその立場になると患者さんの気持ちがすごく分かりました。よく、耳にする左右差というのもしばらくは経験しましたし、痛みについても当日よりも翌日からの方がひどくなりました。でも、激痛とかではなく、しみてまぶしくて目が開けることができない感じ・・・まさにそうでした。あくまで個人差はありますが、ずっと続くことではないし、その先には快適な生活が待っているかと思うと頑張れました。8~9日後には両眼とも裸眼視力1.5。痛みも5日ぐらいでなくなりました。現在手術してから3ヶ月経ちますが、視力は変わらず、ドライアイやハロー・グレアも感じません。

今では、コンタクトのことを気にせずうたた寝だってできるし、旅行先での温泉も快適です。もっと早く出会いたかったと思うぐらいです。

今回の経験をもとに、レーシックについてきちんとみなさんにお伝えできたらいいなと思います。不安や疑問に思うことは遠慮なく何でも聞いてきてください。